

会議員の逮捕は由々しき事態だ。裏金疑惑がある議員のけじめを早急につけるべきだ」と強調した。国民

外相は7日(日本時間同)、ウクライナの首都キエフ(キエフ)を訪れ、クレバ外相と会談した。ロシアに

約機構(NATO)の基金に新たに約3700万ドル(約53億円)を拠出すると表明した。

道産米 EUへ輸出

カネシメ新会社 来月にも

道内卸売り大手のカネシメホールディングス(HD、札幌)は、道産食品を海外に売り込もうと設立した新会社を通じて、2月にも欧州連合(EU)への道産米輸出に乗り出す。当面は年200トを目指し、新会社の5年後の売上高目標は他品目と合わせ15億円とする。中国による日本産水産物の禁輸が続く中、輸出品目や取引先の多角化につなげ、「脱中国依存」を図る試金石としたい考えだ。

新会社は「TASTE OF HOKKAIDO」で昨年12月1日に設立。資本金は1千万円で、カネシメHDの高橋清一郎社長が新会社の社長を兼務する。カネシメHDの中核会社で水産卸のカネシメ高橋水産は、1960年代から欧米のサバや塩カズノコなどを輸入。日本の農水産物への関心が年々高まる中、新型コロナウイルス禍の沈静化も踏まえ、海外事業の本格化を決めた。

得意とする水産以外の分野を開拓するに当たり、日本食レストランが増える中で香港やシンガポール、米国向けと比べて輸出品が少なかったコメを選んだ。手始めに、旧知の欧州企業の紹介で、ドイツなど欧州圏ですし店をチェーン展開するデンマークの企業との取引を目指す。1月中旬に結めの協議を行う。輸出する道産米はななつぼしを予定している。

道によると、道内港から輸出された農作物のうち、コメは年間3711ト(2022年)で、EU向けはゼロ。過去10年間でも、21年にフランスに出された8トのみ。新会社は原則、道内港発で輸出を手がける方針で、北海道としての輸出品の底上げにも寄与する。新会社は商社を通さないビジネスモデルの確立を目指し、貿易実務に詳しい商社や財団OBらを招く。道産米だけでなく、他の農産物や海産物、日本酒、ワインなどと取扱品目を徐々に増やす考え。既に昆布や果物類の引き合いが寄せられている。輸出先は米国やアジア圏も想定している。

道産食品の輸出を巡っては、道が輸出戦略の見直しを進めており、主要品目のホタテに代わる輸出品目の発掘や海外市場の開拓を目指している。高橋社長は「調理や加工法などの技術指導も行い、道産食品を世界に広めていきたい。道の輸出戦略の一翼も担ってほしい」と話す。(田中華蓮、徳永仁)

▼動 静 ▲ 7日

■首相 午前、来客なく、公邸で過ごす。午後1時29分、官邸。31分、林芳正、村井英樹、森屋宏、栗生俊一正副官房長官、松村祥史防災担当相、村田隆内閣危機管理監、森昌文首相補佐官、高橋謙司内閣府政策統括官、森光敬子厚生労働省危機管理・医務技術総括審議官、茂木正経経済産業省商務・サービス審議官、松山泰浩資源エネルギー庁次長、国土交通省の広瀬昌由水管理・国土保全局長、丹羽克彦道路局長、石坂聡住宅局長。2時6分、能登半島地震非常災害対策本部会議。3時27分、報道各社のインタビュー。33分、公邸。